



## 長沼町×鶴居村 タンチョウ子ども交流ツアー ～長沼編～

先月号に引き続き、今号でも「KODOMO湿地交流」の取組みについてお伝えします。

先月号では、タンチョウ子ども交流ツアーの「鶴居編」ということで、共にタンチョウが暮らしている地域に住んでいるという共通点から、以前より交流を続けている長沼町の子どもたちを鶴居村に招き実施したイベントについて紹介しました。そして今回は、鶴居村の子どもたち9名と共に長沼町に行き、タンチョウ子ども交流ツアーの「長沼編」を実施しましたので、その様子をお伝えします。

今回の交流ツアーも鶴居編と同様に2日間の日程で実施しました。

1日目は朝早くに集合し、バスで長沼町に向かうところからスタートです。バスの中では、お泊りでの活動を楽しみにしていたハイテンションな子どもたちとワイワイ盛り上がり、あっという間に長沼町に到着しました。到着後は、長沼町の子どもたち15名と合流して活動開始です。1日目の主な内容は「長沼町の今と昔を知ること」「舞鶴遊水地を見ること」です。まずは長沼町について知ることということで、長沼町の昔の話を紙芝居で勉強した後、文学台という町を見渡すことのできる展望台へ行き、現在の長沼町の様子を実際に確認しました。



舞鶴遊水地で記念撮影

長沼町について勉強した後は、舞鶴遊水地へと向かいました。舞鶴遊水地とは、千歳川の治水事業の一環で整備された遊水地の一つです。実は、この場所では長沼町で唯一、1家族のタンチョウが住んでおり、その保護活動が進められています。ここでは、長沼町のタンチョウ保護にかかわっている「舞鶴遊水地にタンチョウを呼び戻す会」の方々からお話を聞き、タンチョウが住む舞鶴遊水地を観察しました。また、舞鶴遊水地からの帰り道では、付近の畑でエサを食べているタンチョウにも出会うことができ大満足でした。



川で生き物探し

2日目は舞鶴遊水地内の川で、タンチョウのエサとなる「生き物探し」を行いました。チームに分かれて、タンチョウの1日分のエサである300gを目標に、川で生き物を探します。川の中からは、小魚のイバラトミヨやヨコエビ、

タニシの仲間など、タンチョウのエサとなる生き物がたくさん見つかりました。中には絶滅危惧種にも指定されているエゾホトケドジョウも見つけることができました。ただ、2チーム合わせても、見つけた生き物の量は300gに満たず、自然の中でエサを探すことの厳しさを知りました。

この2日間と、前回の鶴居編とを合わせた今回の交流イベント中で、大人たちも驚くほど両町村の子どもたち同士が仲良くなっており「また来年会おうね」といった会話も聞くことができました。今後も、今回のようなイベントを通して、子どもたちが仲良く交流できる機会を作りたいと思います。